

御神楽

舞装束 宮人



剣鈴 けんすず

舞の際に巫女が手に持つ採物で剣に鈴がついているもの。柄の下には五色（ごしき）の布がついている。五色は神社でよくみられる色の組み合わせで、「木火土金水（もっかどごんすい）」を象徴している。剣は「三種の神器」を象徴する。

単 ひとえ

袴の下に着用する、腿までの丈の短い紅梅色の絹装束。平安時代、襟と袖部分にその色が見え、色の重なり合い「襲（かさね）」によって、意味や教養を示した。

花簪 はなかんざし

黄色と白の菊の花の華やかな簪。舞を舞う巫女の動きに合わせて、銀ピラと呼ばれる装飾がきらめくような作りとなっている。

小忌衣 おみごろも

古代から伝わるもので、重要な神事の際に使用される白色の上衣。青摺（あおずり）という染の技法で菊や鶴の文様が装飾されている。

裳 も

腰から下にまとう装束。白と深い青の色合いが美しい地に、季節の花や鳳凰などの文様がほどこされている。

袴 うちぎ

鮮やかな萌黄色の装束。小忌衣の下に着用し、白い生地、袴の萌黄色が淡く透けて見える。

八幡宮の風物詩

鶴岡八幡宮では、年間を通して様々なまつりを執り行っています。

主要なものだけを挙げるとしても50近いまつりがあり、それぞれ長い歴史と特徴をもっています。そうしたまつりは大祭・中祭・小祭に分けられており、大祭は、例祭・祈年祭・新嘗祭など、中祭は歳旦祭・元始祭・神嘗祭などで、小祭は大祭・中祭以外のまつりです。

御鎮座記念祭／12月16日

1191年、現在のように大臣山の中腹に本宮が鎮座しました。そのことを記念し、舞殿北庭で御神楽が奉奏されます。

大祓／12月31日

日々の罪穢を祓い清めるためのお祓いで、参列者は大祓詞を読み、心身の清浄を祈ります。

歳旦祭／1月1日

年の初めにあたり、八幡大神に対して新年の慶びを申し上げ、国の安寧を祈ります。

御判行事／1月1日から1月7日

御神印を額に押し当てて無病息災や厄除けなどを祈念します。

除魔神事／1月5日

「鬼」の文字が封じ込まれた直径156cmの大的を射ます。弓矢によって魔を退ける神事です。